



2022年度 東京工芸大学・風工学共同研究拠点・公開研究会のご案内

## 「日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究」

小規模ではあるが激甚被害をもたらす竜巻等に対する個人や行政レベルの対応，ならびに構造物の耐風性や設計上の考え方に関するわが国の状況は，米国等に比較して現在も十分とは言えません。

我が国では陸上の竜巻は年間 20 個ほど発生しますが，その寿命は短く、顕著な影響が生ずる範囲も狭いため，気象観測データのみから実態の把握を行うことは容易ではありません。竜巻発生の実態把握をさらに進めるためには，竜巻による多様な被害にもとづき竜巻に伴う風の強さを精度良く評価する努力を積み重ねる必要があると思われます。1971 年にシカゴ大学の藤田哲也博士により提案されたフジタスケールは，その簡便性から世界各地で使用されてきましたが，被害指標の数が少ないことや，被害程度に基づく風速推定に関する課題などが指摘され，米国ではこれらの課題を改善した改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が 2007 年 2 月から用いられています。日本においては気象庁により「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」(JEF スケール)が 2015 年 12 月に策定され，2016 年 4 月から運用されています。本研究会では，これまでの JEF スケールの運用状況や竜巻等突風に関わる研究に関する情報交換を行い，「日本版改良藤田スケール」の理解と運用ならびにその改善に寄与することを目的といたします。奮ってご参加いただきたく，ご案内申し上げる次第です。

新野 宏 (東京大学名誉教授)

開催日時：2023 年 3 月 22 日 (金) 15:00~17:00

開催場所：Zoom による Web 開催

参加申込：下記 URL からお申し込みください。Zoom URL をお送りいたします。

[https://docs.google.com/forms/d/1VWBcuOhEIlmJ3j6\\_ppGKchZT5Op\\_Jd2R91mT7IQLUdo/](https://docs.google.com/forms/d/1VWBcuOhEIlmJ3j6_ppGKchZT5Op_Jd2R91mT7IQLUdo/)

ご不明な点は，jurc\_office@arch.t-kougei.ac.jp までメールでご連絡ください。

プログラム (敬称略)

(内容は更新される可能性があります。風工学研究拠点 Web サイトで最新版をご確認ください。)

15:00~ 開会挨拶

新野 宏  
(東京大学名誉教授)

15:05~15:50 招待講演

冬季日本海側における突風探知の取り組みと今後の展開  
質疑応答 (15:50~16:00)

楠 研一  
(気象庁 気象研究所)

16:00~16:20

令和 4 年度の突風事象に対する気象庁の対応

牛島 孝友  
(気象庁 大気海洋部 気象リスク対策課)

16:20~16:40

数値解析による飛散物の評価と被害評価に関する問題点

丸山 敬  
(京都大学大学防災研究所)

16:40~16:55

竜巻等突風データベースを利用した統計的評価例の紹介

松井 正宏  
(東京工芸大学)

16:55~17:00 閉会